

案件概要書

2019 年 4 月 23 日

国際協力機構東・中央アジア部中央アジア・コーカサス課

1. 基本情報

- (1) 国名：ウズベキスタン共和国（以下、「ウズベキスタン」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ウズベキスタン全土
- (3) 案件名：医療サービス強化計画（Project for Strengthening Health Services）
- (4) 計画の要約：本計画は、脳神経疾患（脳卒中等）等の非感染性疾患（NCDs）に対する医療サービス提供・人材育成の拠点となる全国の三次レベル医療施設に対する施設・機材の整備及び医療従事者の能力強化等を通じて、NCDs に対する医療サービス提供体制の強化を図り、国民の健康増進に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性**(1) 本計画を実施する外交的意義**

ウズベキスタンは天然ガスやウラン、レアメタル、レアアース等の天然資源に恵まれており、同国への支援は、我が国の資源エネルギー外交の観点からも戦略的に重要である。また、ウズベキスタンは伝統的に親日的であり、我が国の国連安保理常任理事国入りを一貫して支持するなど、国際場裡において我が国への協力に好意的である。

2015 年 10 月、安倍総理のウズベキスタン訪問時の共同声明で、ウズベキスタン側は保健医療分野での協力を感謝の意を表明するとともに、日本企業による日本製医療機器サービスセンターの設立事業の実施を始めとする同分野における一層の協力の継続に期待を表明していることから、本計画の実施を通じて二国間関係の強化に寄与することが外交的にも重要である。

(2) 当該国における保健医療セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ウズベキスタン共和国では、推定平均寿命が 69.6 歳と、日本（84.2 歳）、ヨーロッパ諸国（80.8 歳）などと比べると依然として短い水準にある（WHO, 2015 年）。また、当国では疾病構造の変化が進んでおり、現在では全死因の 84% を非感染性疾患（Non-Communicable Diseases：以下、NCDs）が占め、虚血性心疾患（28%）、脳神経疾患（11%）、がん（8%）などが上位を占める（WHO、2014 年）。かかる状況において、NCDs に起因する経済的・社会的影響が懸念されている。

三大疾患のうち、虚血性心疾患、がんについては、首都の国立専門センターが各州の支部と連携して専門的な医療サービスの提供・専門医の育成を全国的に行う体制が既に確立されている。これに対し、脳神経疾患（脳卒中を含む脳血管疾患、その他の神経系疾患等）については医療の近代化・高度化が遅れているため、新たに国立センターを整備し、専門的な医療サービスの提供や人材育成を行う基盤を確立することが不可欠である。またアンディジャン州、サマルカンド州の医学研究所は、地方部における三次医療施設として NCDs に対するサービス提供及び国内における保健人材の育成のための重要な拠点である。しかし医療機材の老朽化が進み、質の高い医療サービスの提供や、近代的な機材を用いた専門医の育成が困難な状況にあり、機材の更新が喫緊の課題となっている。

ウズベキスタン政府は「行動戦略 2017-2021」の第 4 の柱「社会保障」で、国民の死亡率の低減と健康寿命の延伸のための保健サービスの改善に取り組むことを示している。また保健分野に係る複数の大統領令でも、NCDs 等に対する質の高い医療サービスを広く提供するための保健システムの改善、保健人材の育成・専門性の強化の方針が打ち出されている。

本計画は、脳神経疾患等の NCDs に対する医療サービス提供・人材育成の拠点となる全国の三次レベル医療施設に対して、施設・機材の整備及び医療従事者の能力強化を通じて NCDs に

対する医療サービス提供体制を強化し、もって国民の健康増進を図るものであり、ウズベキスタン政府が目指す保健医療体制の改善に不可欠な優先度の高い計画として位置付けられる。

なお、対ウズベキスタン共和国国別開発協力方針（2017 年 3 月）では、重点分野 3「社会セクターの再構築支援」として保健セクター改革を掲げ、疾病による経済的・社会的な負荷の大きい NCDs の増大に対する予防・治療体制の強化や保健人材の能力強化に取り組む方針を定めており、本計画はこの方針と合致する。

3. 計画概要

(1) 計画概要

① 計画内容

- ア) 医療施設の整備（国立脳神経センターの新設：タシケント市、1 か所）
- イ) 医療機材の整備（MRI, CT, X 線装置等の画像診断機器、内視鏡等の診断機器、手術用機器等）
- ウ) コンサルティング・サービス：詳細設計、入札補助、施工監理、医療従事者の能力強化（病院施設管理、医療機材維持管理等）

②期待される開発効果：脳神経疾患等の NCDs に対する医療サービスの改善、地域住民の健康増進等。

③借入人：ウズベキスタン共和国政府（Government of the Republic of Uzbekistan）

④計画実施機関／実施体制：ウズベキスタン保健省（Ministry of Health of the Republic of Uzbekistan）

⑤他機関との連携・役割分担：特になし⑥運営／維持管理体制：医療機材については保健省及び各病院が運用・維持管理の責任を負う。維持管理の体制や予算確保の状況に加え、主要な機材については保守管理契約を借款対象に含める可能性について協力準備調査で確認する。

(2) その他特記事項

- 本邦技術活用：医療機材の整備のうち画像診断機器や手術用機器等について本邦技術の活用が見込まれる。適用条件については、優先条件（「保健・医療分野」に該当）と STEP 条件の双方の適用可能性を念頭に、協力準備調査のなかで検討を行う。
- 他援助機関の対応：同国の保健セクターについては、世界銀行、ADB が一次レベル医療施設に対して、KfW が二次レベル医療施設に対して、医療機材の整備等を行うプロジェクトをそれぞれ実施している。さらに、イスラム開発銀行が三次レベル医療施設のうち国立がんセンターに対する医療機材整備を実施している。
- 環境社会配慮：本計画は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため、カテゴリ C に分類する。（協力準備調査にて確認する。）
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）に該当し、協力準備調査にてジェンダー主流化ニーズを確認する。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

タジキスタン共和国「ディアコフ国立病院医療機材整備計画」の事後評価等（評価年度 2015 年）では、整備した CT の主要部品が過剰な使用が原因とみられる故障を起こして交換が必要となり、同スペックの部品を病院の予算で調達するまでの間、機材を使用することができなかったことを踏まえ、故障した際のスペアパーツの調達を含めて、メンテナンスの体制や故障時の具体的な対応を事前に検討しておくことが重要であるとの教訓を得ている。

本計画においては、医療機器の継続的な使用を担保するため、協力準備調査のなかで主要な

機器の運転実績見込み，保守管理を行う臨床工学技士の能力，メンテナンスコスト等を適切に把握し，主要な機器に対する保守契約を計画のスコープに含める可能性を検討する予定。

以 上

[別添資料] 医療サービス強化計画 地図

医療サービス強化計画 地図



出典：JICA